

## マックス株式会社 2022 年3月期第2四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2021 年 11 月 4 日（木）に開催したアナリスト、ファンドマネージャー向けオンライン決算説明会にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

### ■インダストリアル機器部門について

#### 〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 2 四半期と前期第 2 四半期の売上実績を教えてください。

#### 〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の今期第 2 四半期（3 ヶ月間）の売上実績は、国内が 12 億円強、海外が 50 億円強となりました。前年同期の実績は、国内が 11 億円強、海外が 31 億円強でしたので、国内は約 11%の伸長、海外は約 60%の伸長となりました。

機械と消耗品でみますと、国内は機械が 8 %程度の減少、消耗品が 20%を超える伸長、海外は機械・消耗品ともに 50%を超える伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械・消耗品ともに 50%の増加、欧州は機械 30%、消耗品 60%の増加となりました。国内は機械 10%弱の減少、消耗品 20%強の増加となりました。

#### 〔質問 2〕

国内の鉄筋結束機の開拓市場である土木市場に対する活動の進捗状況を教えてください。

#### 〔回答 2〕

国内の土木市場は導入促進の取組みを継続していますが、従来の建築市場とは異なるルートへの営業活動が必要であるため、十分な成果が現れるには時間を要すると考えています。しかし、鉄筋結束機「ツインタイア」は使用可能なアプリケーションが豊富であることから、土木市場での需要自体は相当程度あると見込んでいます。

#### 〔質問 3〕

今後の欧米市場の伸長見込みを教えてください。

#### 〔回答 3〕

コンクリート構造物向け工具の中でも、結束作業の「効率化」という面で高い評価を得ている鉄筋結束機「ツインタイア」の需要は、人手不足の恒常化もあり、今後も堅調に推移すると見込んでいます。

想定される需要増に対応するために、タイに鉄筋結束機の消耗品「タイワイヤ」の製造を目的とする新工場の建設を決定し、更なる事業伸長を図っていく計画です。

## ■オフィス機器部門について

〔質問 4〕

オートステープラ事業の回復状況を教えてください。

〔回答 4〕

オートステープラ事業は、機械・消耗品ともに対前年では回復傾向にありますが、2 期前の 2020 年 3 月期の水準までは回復していません。当期は、2020 年 3 月期の 75%程度の事業規模を想定しており、ほぼ計画どおりの進捗状況となっています。

## ■全社状況について

〔質問 5〕

原材料価格の高騰によるコスト増への対応を教えてください。

〔回答 5〕

コスト増の主な要因は、鉄鋼価格の上昇です。当社では、タイワイヤや釘、ステープルなどの消耗品が影響を受けています。国内においては一部製品の価格見直しを既に実施していますが、今後の状況を注視しながら随時対応を検討していきます。

〔質問 6〕

今回の業績予想の修正について、上期営業利益と比較すると（対計画+4.6 億円）、下期営業利益の増額幅（対計画+0.4 億円）が小さい要因を教えてください。

〔回答 6〕

原材料価格の高騰によるコスト増、中長期的な事業成長に向けた戦略的投資費用の増加が主な要因であり、これらの内容を業績予想修正に含んでいます。

〔質問 7〕

現在公表している 2022～24 年 3 月期中期経営計画の達成見通しを教えてください。

〔回答 7〕

2022 年 3 月期の売上高は、前期策定した中期経営計画における 2024 年 3 月期の計画に迫る水準を見込んでいます。一方で、利益面では、原材料価格の高騰や輸送費用の増加など、事業環境は変化しており、それらのコスト増の見通しをふまえた議論を社内を開始しています。今後は、社内での検討内容及び下期実績を考慮しながら、中期経営計画の修正を進め、公表する予定としています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2021 年 11 月 4 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。